

日本学術会議会長談話

吉野彰先生のノーベル化学賞受賞を祝して

この度、吉野彰先生（旭化成名誉フェロー、名城大学大学院理工学研究科教授）が、米テキサス大学のジョン・B・グッドイナフ教授、米ニューヨーク州立大学のM・スタンリー・ウィッティングガム教授とともに、ノーベル化学賞を受賞されることが決定いたしました。心よりお慶び申し上げます。このたびの受賞を、我が国の科学者の代表機関である日本学術会議の会長として、大変誇りに思います。

今回の授賞は、リチウムイオン電池を開発したことに対するものでした。リチウムイオン電池は、小型・軽量で充電可能、かつ大容量で長寿命という非常に優れた電池であり、現在では、スマートフォンをはじめとする様々なモバイル機器や電気自動車の電源として、生活のあらゆる場面で使われています。吉野先生は、商業利用可能なリチウムイオン電池を考案し、それが充放電を行えることを1980年代に実証されました。リチウムイオン電池は、太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギーの導入拡大によって、地球環境問題への対応にも貢献しています。更なる性能向上によって、今後もリチウムイオン電池の応用が拡大するものと期待されています。

今回の受賞でも、我が国の科学研究の高い水準が世界に示されました。日本学術会議では、我が国の科学者を代表する機関として、産業界とも密接に連携を図りながら、学術のさらなる発展のために力を尽くしてまいります。

令和元年10月23日

日本学術会議会長 山極 壽一